

日本とポルトガル首脳外交：フォローアップの現況と今後の展開
(2014年11月14日・日本人会経済勉強会)

在ポルトガル日本国大使館 藤村 和広

1. 安倍総理大臣のポルトガル訪問

5月2－4日 欧州歴訪の一環（他は、独、英、西、仏、EUを訪問）

日本の総理大臣として初めてのポルトガル訪問

○参考：ポルトガル首脳の日本訪問

1984 ソアレス首相 公賓

1989 ソアレス大統領 大喪の礼

1990 ソアレス大統領 即位の礼

カヴァコ・シルヴァ首相 花博賓客

1993 ソアレス大統領 国賓

2005 サンパイオ大統領 愛知地球博賓客

2. フォローアップの現況

5月2日付日ポルトガル首脳共同コミュニケ発出 ～ その着実な履行が進行中
例えば。。

(1) 政治・安全保障分野

要人往来：日→ポ 稲田朋美内閣府特命大臣、衆議院憲法調査議員団（7月）、
赤松広隆衆議院副議長（8月）

ポ→日 クリスタス農業海洋大臣（6月）

ポルトガル国防省国防政策局長の訪日（5月）

日ポルトガル外務副大臣会談（10月、カイロでの国際会議の機会に）

(2) 経済分野

シャンパリモー財団ベレーザ理事長の訪日（女性国際シンポ出席）（9月）

ジェトロ・ビジネスミッションの来訪（10月）

総合海洋政策本部専門家の来訪（10月）

(3) 文化・学術分野

日本祭り（6月）

日本の書展（10－12月）

第二回日本語弁論大会（11月）

(4) 多国間協力分野

日本のポルトガル語圏諸国共同体（CPLP）オブザーバー参加承認（7月）

サントメ・プリンシペ国政選挙に対する当館館員の国際監視員派遣（10月）

講演・討論会「コロキウム：日本・ポルトガル・EU協力」開催（10月）

3. 首脳外交の意義

- (1) 二国間で多くのことを動かすモメンタムが得られる
首相は行政府の最高責任者 = 首脳会談は二国間の最高レベルの会談
→ 外交当局、国内諸官庁が総動員
→ 新規事業の立ち上げ、懸案の打開の好機
- (2) その成功は相手国について関心、好感度をアップ
メディアでの報道、HP初めネット記事 = 訪問自体、及び関連の情報
口コミ = 「ポルトガルってとても良いところだよ！」
→ 波及効果大、関心、好感度の高まり
- (3) 相手国政府へのアクセスのレベルの高まり・幅の広がり（特に大使館にとって）
首脳外交準備・実施の過程で人脈が一気に拡大
→ それまでアクセスが難しかった権力中枢、政府部門へコンタクトが可能
→ 情報収集、外交的働きかけが迅速、容易に
= 日本企業支援、邦人安全対策も円滑化

4. 今後の展開

- 11月19－22日 投資貿易振興庁（AICEP）長官と経済ミッションの訪日
～ 明年初め パッソス・コエーリョ首相の日本公式訪問
→ 最重要の課題 = 経済関係の強化（「戦略的経済外交の推進」の一環）
 - ← 日本における経済団体、個別企業とのコンタクト
 - ← ポルトガルからの民間経済人ミッションの同行
 - ← 日EU経済連携協定の早期締結に向けた交渉進展（目標＝明年内妥結）

○参考：日ポルトガル関係・2015年前半のカレンダー

- 1－3月の間 パッソス・コエーリョ首相の訪日
- 2月下旬 観光セミナー
- 3月 国連防災会議（仙台）
- 4月以降 ポルトガル側主催リスボン大地震260周年行事
- 6月3－7日 ポルトガル政府主催「ブルー・ウィーク」
- 6月なかば 日本祭り

5. 最後に

何を考えて対ポルトガル外交を進めているのか？

- = ① 欧州の中で日本の味方を得る
- = ② 新しい切り口（分野）を求める
- = ③ オールジャパンで取り組む

以上